

分散クラウドによる アプリケーションのモダナイズ

顧客の期待に迅速かつ確実に対応



FutureTrade について

FutureTrade 社は、大手金融サービス会社で、株式取引プラットフォーム、バック・オフィス、分析アプリケーションを、IBM ミドルウェアで実行しています。リクエストを処理するための WebSphere Application Server, トランザクションデータを処理するための DB2、メッセージング用の MQ など、FutureTrade 社のアプリケーションのアーキテクチャーは、従来のスタック型で構築されており、オンプレミスの仮想ハードウェアで動作します。FutureTrade 社の開発チームは、6ヶ月周期で新機能をリリースしています。



目的

アプリケーション開発の 汎用性と運用の効率化

金融サービスでは、お客様が資金へのアクセスや操作方法に柔軟性を求める傾向が強まっています。競争力を維持するために、FutureTrade 社はその期待に素早く応える必要があります。そのためには、アプリケーションをモダナイズし、独立しているが接続された小規模なサービスに分解する必要があります。

FutureTrade 社は、アプリのモダナイゼーションに必要な資金を確保するために、インフラ費用の節減を望んでいました。アプリケーションをオンプレミスの仮想化インフラから、AWS のデータセンターにある Infrastructure as a Service に移行しました。



課題

広く分散したベンダー・ サイトでのメンテナンス

ワークロードを AWS のデータセンターにある仮想マシンに移行することで、FutureTrade 社が必要としていた拡張性を実現しました。しかし、ソフトウェアを定期的に更新するために、複数の拠点の運用スタッフが必要になるという負担がすぐに発生しました。

また、FutureTrade 社は、業務を行っている各データセンターで、金融規制のコンプライアンスの準拠に必要なすべての管理体制を構築し、維持しなければなりません。

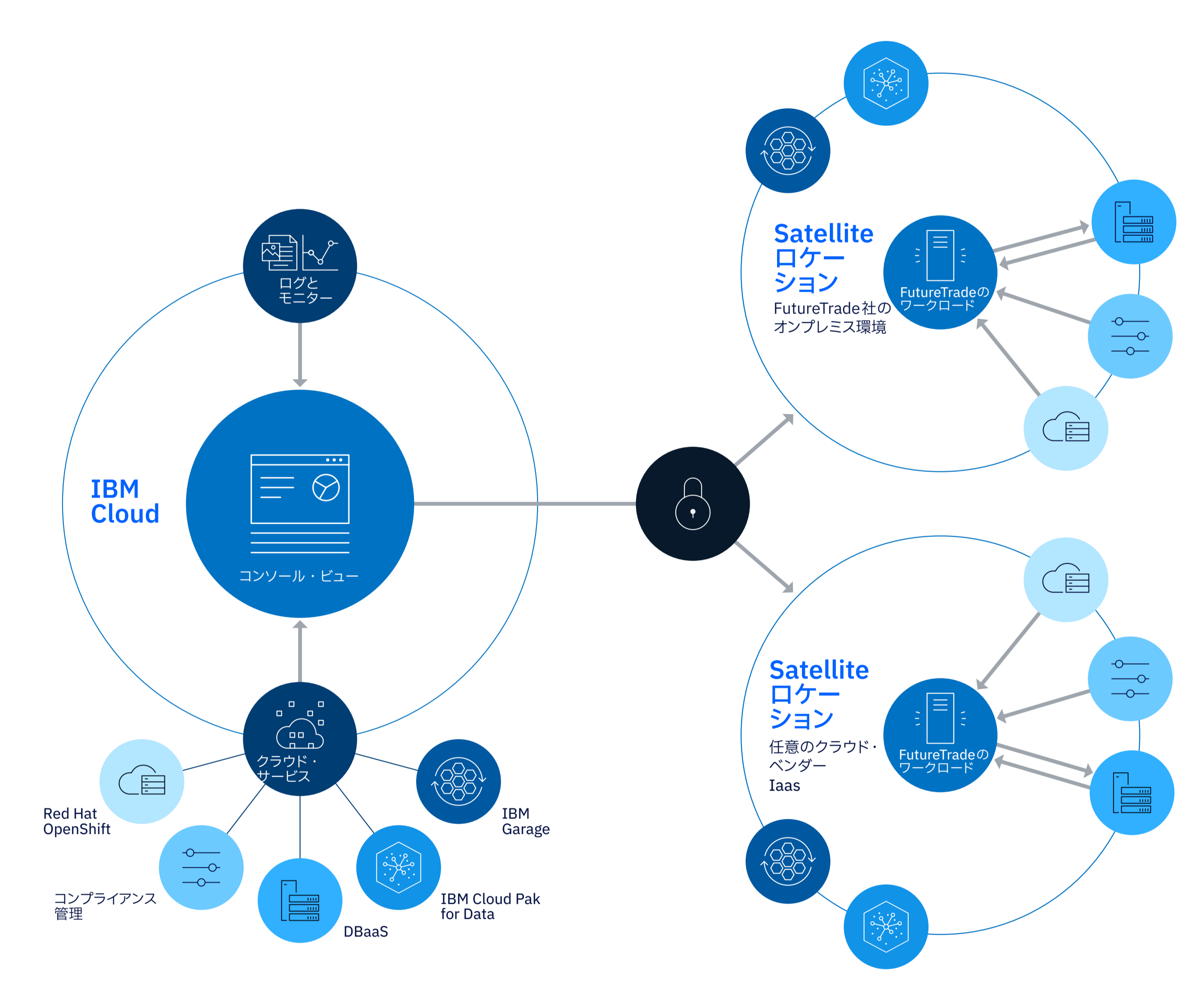
また、アプリケーションをモダナイズするには、FutureTrade 社のチームに備わっていないクラウド・ネイティブ・ツールやプラクティスに関する専門知識が必要です。

IBM Cloud Satellite の導入

IBM Cloud Satellite を活用することにより、クラウドのサービスとソフトウェアを、オンプレミスや他のクラウド、エッジなど、あらゆる場所に拡張することができます。

FutureTrade 社は、単一のコンソールから、IBM Cloud Paks で必要なミッション・クリティカルな IBM ソフトウェアを、クラウド・プロバイダーのデータ・センターのインフラストラクチャーに直接配布することができます。

これにより、FutureTrade 社はより重要なビジネス関連業務に専念できるようになりました。



FutureTrade 社は、Satellite を利用して業務を削減・統合することで、予想以上に早くアプリケーションのモダナイゼーションに着手できました。FutureTrade 社は、IBM Cloud Satellite のロケーションで Red Hat OpenShift を使用し、ワークロードを実行しているのと同じデータ・センターにあるインフラストラクチャーでコンテナ・オーケストレーションを設定しました。

Satellite は、Red Hat OpenShift on IBM Cloud に財務管理機能を組み込んでおり、FutureTrade 社がアプリをモダナイズする際のリスク管理の軽減と簡素化を実現しました。

FutureTrade 社は、Red Hat OpenShift の他に、Satellite を使用して、様々なデータベースやその他のクラウド・サービスを迅速にプロビジョニングし、必要な時にすぐにプロトタイプを作成してアプリを拡張することができます。

IBM Cloud Satellite は、IBM Garage と密接に連携しており、お客様がクラウド・ネイティブなツールや働き方を体験できるようサポートしています。FutureTrade 社は、より迅速に対応できるよう、IBM Garage の専門家から、重要なアプリケーションをコンテナ基盤にモダナイズする方法についてアドバイスを受けました。

さらに Satellite の ID 管理とアクセス管理のフレームワークを利用することにより、複数のオフィスの開発者がその作業を共同で行いました。わずか 12 週間で、FutureTrade 社の重要なアプリケーションを効率化し、ユーザー体験を直接向上させる Minimum Viable Products (MVP) を定義し、提供することができました。

結果

FutureTrade 社は、 クラウド戦略を加速 する事ができました

最初の MVP を完成させたことで、FutureTrade 社は、次の作業を定義し、優先順位をつけることができました。

複数のバージョンのアプリケーションや複数の場所にあるアプリケーションを一元管理できるので、IBM Cloud Satellite は、FutureTrade 社にとって欠かせないものになりました。Red Hat OpenShift を使用することで、FutureTrade 社はいつでも、どこでも、最新のアプリケーションを一貫して安全に実行することができます。

Cloud Satellite により、FutureTrade 社は以下のことが可能になります。

- クラウド・プロバイダーのデータ・センターで稼働しているミッション・クリティカルな IBM ソフトウェアの更新をリモートで管理
- FutureTrade 社が Satellite サービスやソフトウェアをプロビジョニングしているすべての場所で、IBM SRE チームが運用管理
- Red Hat OpenShift を一貫したコンテナ・オーケストレーション・プラットフォームとして使用し、モダナイズされたプロトタイプと実働アプリケーションを開発、導入
- 導入されたクラウド・サービスやアプリケーションを単一のコンソールで監視・管理
- 財務管理と一貫したアクセスおよび ID 管理が組み込まれたクラウド・サービスを使用することで、リスクを管理

ここで紹介するのは実際のケーススタディーに基づいていますが、掲載されている企業や組織は架空のものです。FutureTrade という会社名も架空です。